

令和 6（2024）年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 6 月 1 日 / 年度末 3 月 1 日
氏名	神谷昌史
学科	国文学科
学科以外の兼務職	学長補佐

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の 5 つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会や FD 委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて 3 年間公表します。

1. 責務（何を行っているのか）

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラムⅠ（初年次教育）	国文	1
日本史概論	国文	1
キャリアデザイン	国文	1
インターンシップ	国文	1
基礎力プログラムⅢ	国文	2
基礎力プログラムⅣ	国文	2
ゼミⅠ	国文	2
ゼミⅡ	国文	2
インターンシップ	国文	2
日本国憲法	国文	2
シティズンシップ論	国文・子ども	2

②担任制度

担任（1 年生）	有	担任（2 年生）	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

運営協議会	副委員長	SD 委員会	
研究倫理委員会	副委員長	地域連携委員会	
危機管理委員会	副委員長	入学者選抜委員会	副委員長
自己点検・評価委員会	委員	広報委員会	
認証評価準備委員会	委員	高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	
学生委員会		ハラスメント防止委員会	委員
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG		教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会	委員	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD 委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会	委員長	紀要編集委員会	委員
学生調査委員会	委員	教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会	委員長	学長推薦選考委員会	
不正調査委員会	副委員長	衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会員	担当	WG-A（産業振興に向けた産官学連携事業）学内代表	
協議会事務局		WG-B（地域コミュニティの活性化事業）学内代表	
WG-D（事業管理）学内代表		WG-C（地域を担う次世代人材の育成）学内代表	

⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有	無
--------	---	---

助成者	日本学術振興会
資金名	科学研究費補助金
研究種目	基盤研究 (C)
期間	2021～2024 年度
助成金額 (期間中合計)	4,160,000 円
研究課題	日中戦争期華北の未公開資料の調査・公開と総合的研究
備考 (分担者等)	研究分担者

2. 理念 (どのような考えに基づいて行っているのか)

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【国文学科】 魅力ある授業と学生支援とを実施し、成果を学内外に発信する。
個人の教育理念・目標	学科長としての理念・目標は、第一に、学科の教育目的・目標を達成するため、学科の運営に務めることである。第二に、そのために事務局と連絡や協力を密にすることである。特に学生支援については、学務課教務係、学務課学生支援担当キャリアデザイン係・学生係と連携して行っていく。第三に、国文学科をまとめていくことである。この点については昨年度を顧みて大変不十分であるとの反省をしており、またその困難さを認識しているが、学科をまとめることが責務であり、可能な限り実現できるよう努力していく。 一教員としての理念・目標は、第一に、一教員の立場からも学生支援に力を入れることである。学生のなかには就学さらには卒業後の自立に困難と不安を抱える者が多くいる。そうした学生も安心して大学で学び、一定の学習成果を獲得して卒業でき、卒業後は社会のなかで自立していける、そのようなサポートを心掛けたい。第二は、授業の改善を図り、少しでもよい授業を行うことである。 なお、今年度は学長補佐の職を命じられた。できることは限られているが、学長の仕事のサポートをできる限り行って、少しでも本学に資することが目標である。

3. 方法 (その考えをどうやって実現しているか)

授業	①授業内容の研究と改善 自らの専門に近い「シティズンシップ論」については、昨年度の授業および内容が近い「くらしと政治」の講義内容をブラッシュアップすることを中心に改善に取り組んだ。特に近年のデモクラシー論や自由主義論に関する文献を精読することにより、シティズンシップに関する知見を深め、学生にわかりやすく説明できるよう努めた。また「ゼミⅠ・Ⅱ」は自らの専門と必ずしも近い内容ではないため、できるだけ多くのマンガ研究を渉猟することにより、学生にマンガ研究の基礎を示すことができるよう努力した。 ②教授方法の研究と工夫 「シティズンシップ論」では一方的な講義にならないよう、作文とディスカッションを取り入れて学生が主体的に参加する授業となるようにした。作文については型作文といわれる形式の決まった作文技法を取り入れ、誰でも一定の作文が書けるように工夫した。またその作文を踏まえ、自らの考えを述べるディスカッションを数回行うことにより、自らの考えをまとめたうえで他者に伝えることに取り組めるようにした。
授業以外 (学生支援等)	①学生支援 学科をとりまとめ、学務課教務係、学務課学生支援担当とも連携を深めて、学生の支援を丁寧に行えるようにした。

4. 成果 (その方法を行った結果、どうだったか)

授業	①授業内容の研究と改善 「シティズンシップ論」は国文・子ども両学科共通科目であるが、両学科の専門とはかけ離れた授業内容である。そのため多くの学生にとってはもともと興味関心のある内容ではない。しかし様々な工夫により一定の関心と理解を得ることができた。また「ゼミⅠ・Ⅱ」は参加学生はマンガという対象については関心をもっているものの、それをどのように「研究」するのかかわからないという中スタートしているが、1年間の授業を通して研究を深めていき、最終的には全員が卒業研究の成果物を作成することができた。 ②教授方法の研究と工夫 「シティズンシップ論」における型作文は参加学生がみな一定の形式を守って文章を書く
----	--

	ことができるようになった。またディスカッションにおいてもほとんどの学生が問題なく参加でき、所期の目的を果たすことができた。
授業以外 （学生支援等）	①学生支援 学務課教務係、学務課学生支援担当、学科教員との連携は、担当職員の積極的働きかけもあって十全に行うことができた。その結果、悩みや課題を抱えている学生へのサポート、出席や課題提出等に問題がある学生への対応等、不足なく行うことができた。また昨年課題であった就職支援についてもある程度行うことができたと考えている。

5. 目標（今後どうするか）

授業	次年度は担当授業数が減るため、一つ一つの授業をより丁寧に行うことを目標とする。引き続き担当する「シティズンシップ論」については、授業内容や方法の大きな変更は行わないが、提出された作文に対し丁寧なコメントを返すことを心がける。
授業以外 （学生支援等）	次年度は学生の担任を持たないため、学生の状況把握が困難になる恐れがある。学生の状況を的確に把握し、支援を進めるために、学科教員、学務課教務係、学務課学生支援担当等との連携をさらに緊密にする。

6. 重点目標に関する自己点検・評価（特に努力した2項目）

教職員としての自覚	今年度は国文学科長に加え、学長補佐の職を拝命した。その立場から、本学方針や3つのポリシーなどを常に意識し、行動することを心がけた。法令やガバナンスコードはもちろん、様々なルールを遵守して行動した。
学生支援	教員個人の立場だけでなく、国文学科長・学長補佐として、組織として学生を支援することに常に努力した。全学体制の学生支援に注力し、国文学科としては退学者を出さずに今年度を終えることができた。

7. 記載内容に関する根拠資料

①令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	シラバス	
②令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	科目別成績分布状況	
③令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	担任一覧表	
④令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	委員会構成名簿	
⑤令和 6(2024) 年度	滋賀文教短期大学	組織図	以上